



- 20:1 そこで、ダンからベエル・シェバ、およびギルアデの地に至るイスラエル人はみな、出て来て、その会衆は、こぞってミツパの主のところに集まった。
- 2 イスラエルの全部族、民全体のかしらたち、四十万の剣を使う歩兵が神の民の前に集まりに出た。
- 3 ベニヤミン族は、イスラエル人がミツパに上って来たことを聞いたイスラエル人は、「こんな悪い事がどうして起こったのか、話してください」と言った。
- 4 殺された女の夫であるレビ人は答えて言った。「私は、そばめといっしょに、ベニヤミンに属するギブアに行き、一夜を明かそうとしました。
- 5 すると、ギブアの者たちは私を襲い、夜中に私のいる家を取り囲み、私を殺そうと計りましたが、彼らは私のそばめに暴行を加えました。それで彼女は死にました。
- 6 それで私は、そばめをつかみ、彼女を切り分け、それをイスラエルの相続地の全地に送りました。これは、彼らがイスラエルの中で、みだらな恥ずべきことを行ったからです。
- 7 さあ、あなたがたイスラエル人のすべてよ。今ここで、意見を述べて、相談してください。」
- 8 そこで、民はみな、こぞって立ち上がった。言った。「私たちは、だれも自分の天幕に帰らない。だれも自分の家に戻らない。
- 9 今、私たちがギブアに対してしようとしていることはこうだ。くじを引いて、攻め上ろう。
- 10 私たちは、イスラエルの全部族について、

百人につき十人、千人につき百人、一万人につき千人をとって、民のための糧食を持って行かせ、民がベニヤミンのギブアに行つて、ベニヤミンがイスラエルでしたこのすべての恥ずべき行いに対して、報復させよう。」

11 こうして、イスラエル人はみな団結し、こぞってその町に集まって来た。

12 それから、イスラエルの諸部族は、ベニヤミンの諸族のすべてに人をやって言わせた。「あなたがたのうちに起こったあの悪い事は、何ということか。

13 今、ギブアにいるあのよこしまな者たちを渡せ、彼らを子として、イスラエルから悪を除き去ろう。」ベニヤミン族は、自分たちの同族イスラエル人の言うことに聞き従おうとしなかった。

14 それどころか、ベニヤミン族は町々からギブアに集まり、イスラエル人との戦いに出て行こうとした。

15 その日、ベニヤミン族は、町々から二万六千人の剣を使う者を召集した。そのほかにギブアの住民のうちから七百人の精鋭を召集した。

16 この民全体のうちに、左ききの精鋭が七百人いた。彼らはみな、一本の毛をねらって石を投げて、失敗することがなかった。

妻以外の女性をめとり、暴行されるために差出し、一晩放っておいて動かない状態なのに「さあ行こう」などと声をかけ、死んでいるのを知ると遺体を切り分けて告発のために使う…。この男性はまともな人格とは思えませんが、彼のことはによって全イスラエルは正義感に燃えて一致します。この奇妙な連帯感の中には「神様のみこころを

聞く」ということがありません。全くの人間だけの感じ方、正義感、連帯感、同情心なので。リーダーから民の隅々にいたるまで、主に祈って主に聞かなければ、人間はどこまでも間違つたまま進んでしまうという実例です。

ディボーションという名でも、祈り込みでも、聖書通読でも構いません。日々主のことは聞いて、実際の自分の言動を正しいものにしていただいて、歩んでいきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

